

# フェローシップ・ニュース NO. 12

特定非営利活動法人  
アジア太平洋地域アディク  
ション研究所

発行日  
2005年9月1日

## 世界犯罪学会議 in フィラデルフィア

第14回世界犯罪学会議に参加して  
アパリ事務局長 尾田真言

2005年8月7日(日)～11日(木)まで、米国のフィラデルフィアにあるペンシルバニア大学で第14回世界犯罪学会議が開催され、参加する機会を得た。65カ国から1000名以上の参加者がいたという。

8月9日(火)には、フィラデルフィアの北西35マイルのモントゴメリー郡にある、アメリカでも有数の重警備刑務所であるグレーターフォード刑務所の中にあるチャペルで、「街路犯罪の文化を終わらせる」と題して、約70名の受刑者と世界中から集まった約125名の犯罪学者が一堂に会して朝9時から夕方4時まで議論するセッションに参加する機会を得た。このミニ・シンポジウムはテンプル大学と、ペンシルバニア州の刑務所協会と刑務所の受刑者で組織されるライフアーズ(LIFERS)との協賛によるものであった。グレーターフォード刑務所の定員は約3400名で、770名は終身刑受刑者であるという。朝7時にペンシルバニア大学構内からバスが出て、1時間ほどで到着した刑務所のセキュリティ・チェックは日本の刑務所よりも厳しく、参加時には筆記用具等は刑務所で用意するから家や車の鍵以外のものは何ひとつ持ってこないようにというメールが参加者宛に送信されてきたほどで、玄関から入るときにもパスポートの顔写真と見比べられ、また、手の甲に紫外線に反応する薬品を塗るばかりか、切断する以外にははずせない構造のプラスチックのバンドを手首にはめさせられるなど1時間近くも手続きに時間が割かれた。数十人ずつのグループに分かれて中に入ると、まもなくチャペルへ案内された。しばらくすると茶色の囚人服を着た受刑者たちが入場してきて、犯罪学者たちの中に入ってきて、その日のプログラムについて個別的に説明してくれ、質問にも答えてくれた。私は一人で座っていたのだが、右隣に来てくれた受刑者は、わかりやすい英語でライフアーズのプログラムはマルコムXの思想に基づいていること、毎週土曜日の夜にミーティングをここで開いていること等を説明してくれた。アパリでは、昨年アミティのメンバーを招いて代々木の国立オリンピックセンターでシンポジウムを開いたが、ライフアーズも同じく、刑務所内の自助グループであり、受刑者自らが自分自身を変革させるためにミーティングをしているという。その目的は今も自分がかつて住んでいた地域に住む家族を守るために治安を良くする必要があり、そのためには出所していく仲間が犯罪的な考え方を変えていかなければいけないという。このシンポジウムに参加していた受刑者たちはみな非常に落ち着いていた。刑務官はチャペルの外に待機しており、チャペルの内側には

入ってこなかった。昼食が出たが、これがとてもおいしい。いつもこんなおいしいものが食べているのかと聞いたら、今日は特別だと教えてくれた。

8月10日(水)午後4時から犯罪学者の石塚伸一教授(龍谷大学矯正・保護研究センター、弁護士)とともに、わが国の薬物事犯者対策について報告した。小さなセッションで参加者は8名で、国籍はイギリス、ドイツ、ケニア、韓国、日本だった(報告の概要については下記URLを参照されたい)。  
<https://www.sas.upenn.edu/criminology/conference/crim/guide/participant/0/1563.html>

私は、「日本の刑事司法制度における薬物依存者の社会復帰について - 処罰から治療へ - 」と題して、民間のリハビリ施設ですら依存症回復プログラムを提供可能なのに政府は薬物依存症という病気の回復に向けた対策をほとんど何もしてこなかったこと、アパリでは5年前から薬物依存症リハビリ施設で保釈中の刑事被告人を受け入れてミーティングを主体としたプログラムを実施しているが、このプログラムを受講することが裁判で被告人に有利な情状として評価されたケースもあること、アパリではこれまで刑事司法手続の諸段階にいる約130名の薬物依存者を支援してきたが、保釈プログラムで受け入れた56名中、一審の実刑判決が控訴審で執行猶予付判決に軽減されたケースが3名、検察官が懲役3年以上の求刑をしたのに懲役3年以下に落ちて執行猶予がついたケースが3名いること、受刑中の身元引受人になったか、近々なる予定の受刑者が26名いること等を報告した。そして最後に、検挙人員は薬物乱用者の氷山の一角に過ぎず、せっかく検挙されても大多数の初犯者はなんらの薬物依存症回復プログラムを受講することもなく社会復帰するのに、2回目以上の人は長期の懲役が科せられている現状を、米国のドラッグ・コート制度のように薬物依存症の治療を中心に据えた制度に変えていく必要性を主張した。続いて石塚教授が、「過剰拘禁と薬物政策：バランスのとれた刑事司法の復活のために」と題して、過剰収容の原因の一つが、覚せい剤の少量の所持および自己使用に対して、検察庁および裁判所が定型的処理をしていることにあるという仮説を検証した。



APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所(Asia-Pacific Addiction Research Institute)の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々の手助けをしているシンクタンクです。

### 目次：

- 世界犯罪学会議出席 1  
の報告  
(米国・フィラデルフィア)
- NAコンベンション 2  
速報!(ハワイ)  
国際協力 nフィリピン
- 入寮者からのメッ 3  
セージ  
「保釈プログラムを受けて」
- アパリからの 4  
お知らせ

# ハワイ NAワールドコンベンション 速報!! 8/31~9/4

2年に1度行われる薬物依存からの回復を祈る祭典、NAワールドコンベンションがハワイで開催された。世界中37ヶ国から参加者が集い、日本からは約300人もの仲間や援助職の方々が参加した。メイン会場には約8,500人も集まり、受付を並ぶ列が1kmも続いた。

日本からダルクの仲間が琉球太鼓を担いで行き、コンベンション会場で太鼓演奏が披露された。広い会場の中で喉をからしながら、精一杯太鼓を叩き、会場からは溢れるほどの拍手をもらった。

今回、日本からのスピーカーのハルエさんは、アジアの女性と子供をテーマにお話をされた。子供を抱えた女性は回復が困難だということ、そしてイスラムなどの文化が違う女性たちはどういう状況になっているのかとても興味深いというお話をされていた。



ハワイの虹

今回、韓国からのニュー・カマー（初参加の人）5名が参加した。近藤恒夫（アパリ理事）やダルクのスタッフがサポートし、「セレニティ・プレイヤー」の日本語版壁掛け一枚12ドルの物を120枚販売し、その売上を彼らの宿泊費や参加費の一部に充て、何とか彼らの参加が実現できた。なんとも心が温まる出来事であった。

2年後には、テキサスでコンベンションが開かれる。近藤恒夫には夢がある。現在薬物事件の保釈中の仲間、飛行船を飛ばす会社を営んでいる人がいる。彼が自由の身になることを祈りながら、コンベンションでその飛行船を使ってアパリやダルクからのメッセージを会場の人々に伝えられたらと思っている。



ハイヤーパワー  
ハイヤーパワー!



ハワイのコンベンション会場にて



日本から参加した女性は浴衣でした



コンベンションで琉球太鼓演奏



琉球太鼓演奏

## JICA(国際協力機構)との協働による国際協力活動 ~ ミンダナオ島・フィリピン

アパリはJICA(国際協力機構)との協働によるフィリピン・ミンダナオ島の支援活動の準備を始めています。ミンダナオ島にある薬物依存症のリハビリ施設「コクーン・ファウンデーション」より技術支援の要請があり、現地に2回出向き話し合いの場を持ちました。10月末には、最終的な打ち合わせに行く予定です。ミンダナオ島はフィリピン最大のイスラム反政府組織が活動し、テロや誘拐事件などが起きる危険な地域のため、拠点をセブ島に移し、そこから遠隔操作で支援をする計画をしています。今後は、本ニューズレターにて進捗状況をご報告いたします。



コクーン・ファウンデーションの仲間たち

## 入寮者からのメッセージ

### 「アパリの保釈プログラムを受けて」・・・しゅう

2004年4月、万引きで逮捕された私は東京都中央警察署の留置所にいました。覚せい剤を所持、使用していたため、それらの容疑でも逮捕されていました。刑務所へ送られてしまうのではないかと不安や通学していた大学を辞めなければならないという絶望感、そして今すぐクスリを使いたいという欲求などを抱え、調べに対して否認を続けていました。やがて両親や尾田先生が面会に来てくれ、保釈プログラムを受けるように勧めてくれたのですが、執行猶予をもらって外に出られればヨシとするのが現実的だという程度の打算ばかりが頭をよぎり、供述でなるべく嘘を付かないように翻意したのが精一杯で、自分がした事に対する反省からは程遠い所にいました。

弁護して頂いた奥田先生、岩本先生には大変申し訳のない話なのですが、保釈を許された私はその日にクスリを買って使い、刑の猶予を頂いた翌日には施設を脱走してしまいました。その後半年間、逮捕される以前の日々と同じように毎日使い続けてしまったのですが、幻聴、幻視を含む私の内的世界は憎悪し、使えば使うほどそれを咎められているような妄想様の気分は強まる傾向を見せ、一日中大声で独り言を話している気持ちの悪い男になっていました。独り言を止めようにも唇が勝手に動いてしまい声が自ずと出てきてしまう状態でした。あまりに拳動不審であったために、今思えばいつ再び逮捕されてもおかしくなかったと思います。そんな私に対して両親が学費の援助を続けられるはずもなく、大学は自主退学となりました。

施設を脱走した後、ミーティングには参加するようにとアドバイスを受けていたのですが、クスリを使いながら出席していた私は引け目を感じて仕方がなくなり「パスします」という言葉すらちゃんと言えぬ気がしませんでした。もちろんクスリを使っていると正直になることもできませんでした。そのような状態であったので、実家に居ても回復の見込みはないという両親たちの助言も認めざるを得ず、翌2005年2月にアパリ藤岡に再入寮し現在に至っています。

一日3回行われるミーティングではなるべく正直に話し、素直に仲間たちの声に耳を傾けるよう努力しています。嘘を付かずに生活できるのは楽なことだとしみじみ思ったりもしますが、クスリに対する欲求は根強くあり、また使い始めたらすぐに嘘つきになるのだろうなとも思っています。保釈プログラムやその後のアパリでの生活は制約だらけではありますが、なぜか楽しい毎日です。きっと仲間にも困られている点にその理由の多くがあるのだと思っています。後々この生活のことを思い出して「でも楽しかったからいいじゃないか」という慰めを自分に言い聞かせるような将来にはしたくないのですが、実際のところあまり自信はありません。そういう私ではありますが、施設にいれば今日一日使わずに済んでいるのがせめてもの救いです。

このテーマの不適合者がそれを書いてしまっているという居心地の悪さを拭いきれず、こんな文章になってしまったことを心からお詫びします。



藤岡のミーティング風景

#### 【スタッフからのコメント】

しゅうさんの保釈はアパリ藤岡を制限住居にしたものでした。判決は保護観察付きではなく単純な執行猶予でした。しゅうさんの様子からもわかるように単なる保釈（元の家で暮らすなど）や単純な執行猶予などほとんど意味を持ちません。依存症から回復していなければ、再使用の可能性が高くなると言わざるを得ません。米国のドラッグ・コートのように治療や回復に向けたプログラム参加に強制力を持たせるよう、日本でも実現できれば・・・と祈りつつ、しゅうさんの回復を見守りたいと思います。

### ボランティア 募集中！！

法学部学生・院生

内容：裁判傍聴、量刑調査、拘置所等面会、相談業務など

ご希望の方は東京本部志立(シダチ)までご連絡ください

### ダルク20周年 フォーラム&懇親会 DVD販売中！！

6月11日に行われたフォーラムの様子がDVDに収められています。

1枚 3,000円

お申込はメールかファックスで  
FAX：03-5830-1791  
メール：info@apari.jp  
ご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。



特定非営利活動法人  
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部

〒110-0015  
東京都台東区東上野6-21-8  
電話： 03-5830-1790  
FAX： 03-5830-1791  
メールアドレス： info@apari.jp

アパリ藤岡研究センター

〒375-0047  
群馬県藤岡市上日野2594番  
電話： 0274-28-0311  
FAX： 0274-28-0313

【入寮条件】

- 1、薬物依存から回復・自立をしようとしている本人
- 2、男性(年齢制限なし)

【入寮期間】

基本的に9ヶ月

【入寮費】

月額16万円(生活保護の方も可能)



ホームページもご覧ください  
<http://www.apari.jp/npo/>

編集責任者  
志立玲子  
平成17年9月1日発行  
定価 1部 100円

<アパリの司法サポート>

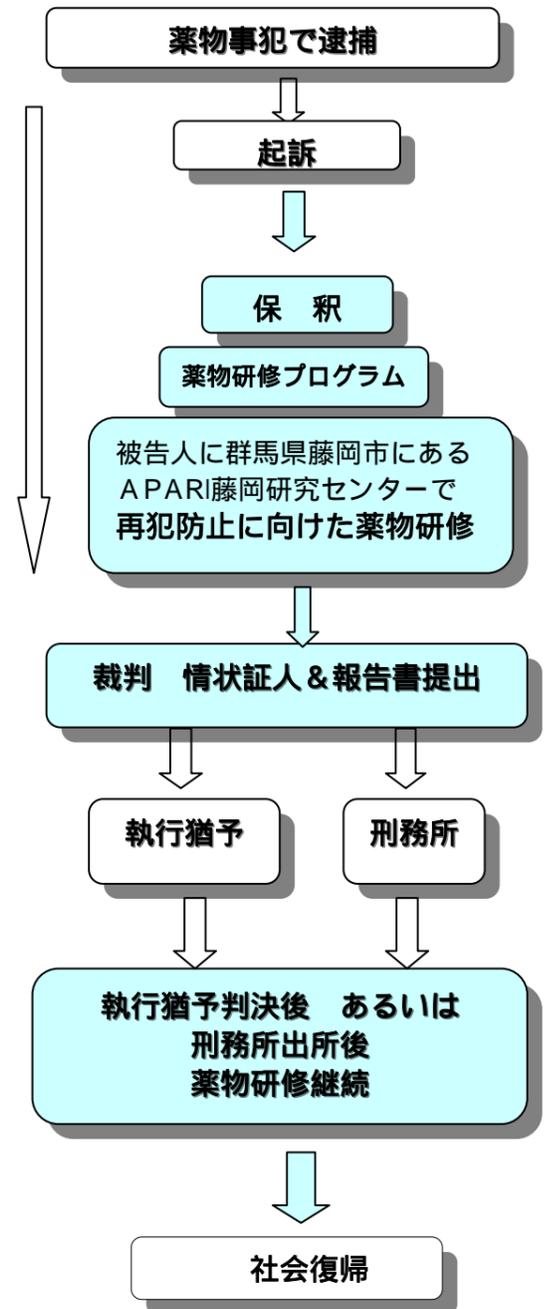
《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま 執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**初めての刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は5%以下です。最近では特に、**受刑中の身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用：コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域の場合は交通・宿泊費の実費が必要です] お問合せは東京本部まで

アパリでの支援



<家族教室>

「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

対象：薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者

日時：第1・第3月曜日18：30～21：00

場所：アパリ東京本部 2階

参加費：3,000円

<個人カウンセリング>

対象：薬物依存症などの諸問題を抱える本人、家族など

費用：1時間1万円

場所：アパリ東京本部内

カウンセラー：川口るり子

[薬物依存症専門カウンセラー。米国薬物依存症リハビリ施設でカウンセラーとして勤務経験あり]

<アパリクリニック上野>

医療社団法人アパリ アパリ・クリニック上野は薬物依存症専門のクリニックです。NPO法人アジア太平洋地域アディクション研究所(APARI)と連携し、保釈プログラムを利用されている方の診療や、アパリ藤岡研究センターへの往診や訪問看護も行っています。

初診日 = 土曜(完全予約制)

予約は電話かメールで受け付けています。

10：00～16：00 日曜、祝日休診

〒110-0015  
東京都台東区東上野6-21-8  
電話： 03-5827-1020  
FAX：03-5830-1791  
メールアドレス： clinic@apari.jp  
<http://www.apari.jp/clinic/>